

ここは商店街のゲストハウス。
旅人と地域をつなぎ、
街をもっと元気にする場所へ。

みんなの力で
復興スクラム!



運営を担うのは、宮古市出身で大学卒業後にUターンした村井旬さん(左)と、千葉県から移住した佐山春さん(右)。
「地域の子どもたちが宮古市を案内するツアーを企画したい」と語ります。

ゲストハウス3710 (ミナト、宮古市)

「宮古市に『街の玄関』となる場所をつくりたい」。昨年8月、市内中心部の末広町商店街にオープンした「ゲストハウス3710^{ミナト}」。復興支援で宮古にやってきた「よそ者」と、地元に戻った「若者」が思いを一つにし、観光と交流の拠点となるゲストハウスを立ち上げました。

一年かけて探した物件は、眼鏡店だった建物。大工さんと一緒に、地元の学生にも手伝ってもらい、1階を旅人と住民が交流できるカフェに、2階を宿泊スペースに改装。約二年前に移住した佐山さんが「ゲストが街を歩いて地元の人と言葉を交わしている様子を見ると、うれしくなる」と話すと、地元出身の村井さんは「それが変わらない温かさ」と顔をほころばせます。

最初は距離があった商店街の人たちとも、今では「仲間」に。春の大型連休には、互いにアイデアを出し合い、商店街に人を呼び込むイベントも開催しました。地域に開かれたゲストハウスが人と人とを結び、街に新しい風をもたらしています。



ミートボールマーケット

ゲストハウス3710と商店街が一緒に考え、実現したイベント。商店街で出会うヒト・モノ・コトを通して宮古を楽しみましょうという企画です。



人と人との交流の場

誰もが気軽に利用でき、出会いと交流の場となる1階のカフェ。地域の人も立ち寄り、お酒を楽しみながら観光客と時間を忘れて語り合います。



ゲストハウス3710

2階の宿泊スペースは1泊3000円、定員18人。一人旅や震災学習に訪れる学生たち、外国人観光客に多く利用されています。

